創作活動における影響の大きな人物

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　７ＡＷＫ１１４４

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　山田　和樹

私は物書きをするのが好きな人間ですが、その中でその基本を構成したりする為の基礎となる書き方や、発想等に於いて大きく影響を与えてくれた人物を紹介したいと思います。

Ⅰ：田中　芳樹

　小説家。小説「緑の草原に……」でデビューし、「銀河英雄伝説」で第１９回星雲賞を受賞。現在でも年間２冊から３冊の新書を書いており、現役で活動している。ただ長編小説の数が多く、長編小説の完結が遅いことでも知られている。現在までに完結している長編小説は「銀河英雄伝説」と「マヴァール年代記」のみであり、「アルスラーン戦記」「創竜伝」「七都市物語」「岳飛伝」などの多数の長編小説が未完のままとなっている。

　私の小説を書く時、最も影響を受けた人物と言って間違いない人物で、基本的な作品構成や起承転結、そして物語の進め方は、自分自身で比べてみてもよく似ており、中学生時代に田中　芳樹氏のファンであった担任教師に私の書いた小説を読んでもらったところ、「田中さんの小説そっくりだ」と言われた事もある。

Ⅱ：河野　一聡

　ゲーム・デザイナー。バンダイナムコゲームズに所属し、ナムコ時代に超本格的飛行機ごっこ「エースコンバット」を考え出した人物の１人。代表作として知られる「エースコンバット５」では、その脚本構成などから映画の様なミスリード等をプロモーションなどで演出して見せた。来年、彼自身がディレクターを務める最新作「エースコンバット・アサルトホライゾン」が東京ゲームショーによって公開されている。

発想の転換という点に於いて私が師事する人物の１人。エースコンバットと呼ばれるゲームは、実在する戦闘機などをモデルとしたフライトシューティングであり、フライトシミュレーションではない事がその最大の特徴。つまりシミュレーション（例を挙げるとするならばパイロットになろう等）とは異なり、複雑な操作系統を省くことでアクション性を追求したゲーム作りをしている。それまで飛行機を用いたゲームは殆どがシミュレーションであった事を考えれば、当時としては画期的な物だった事が窺える。

Ⅲ：トム・クランシー

　小説家。おもに軍事関係の小説を執筆する人物で、有名な物としてはショーン・コネリー主演の映画「レッドオクトーバーを追え」の原作者でもある。非常に年密に行われた取材と、様々なコネクションを用いることでえられた軍事情報などを基に小説を書く為、非常にリアリティが高いことでも知られている。そのリアリティの高さ故、フランスのゲーム会社ＵＢＩソフトでは、トム・クランシー監修の下、「トム・クランシーシリーズ」を制作しているほど。

　私が初めて読んだ作家さんであり、私が物書きを目指そうとした最大の転換点を与えてくれた人物でもある。

Ⅳ：加藤　元浩

　漫画家。「Ｑ．Ｅ．Ｄ．　証明終了」という推理漫画で知られ、非常に評価の高いミステリを提供している。その為、ミステリコミックの最高峰とも呼ばれるほどで、推理作家の人がこの漫画を読んでも犯人を特定できなかったという事が起こった程。尚、加藤氏本人が理系の大学に通学していた事もあり、非常に数学や物理に関する物が多く、中にはリーマン予想（数学史上最大の難問。これが出来たら１００万ドルもらえる）やポアンカレ予想（同じく数学における難問。ただしロシアの数学者ペレルマンによって証明される）などの専門知識を持っていても途轍もなく難しい物や、日常の疑問点やコンゲーム（騙し合い）など、従来のミステリとは異なるアプローチから物語を作り出す。因みに推理作家アガサ・クリスティは、「殺人こそが唯一ミステリを名乗る事が出来る」という趣旨の発言を残しており、加藤氏はそれに対して挑戦状をたたきつけている立場でもある。

蛇足：本当はウィル・ライトも影響を受けた人物なのですが、ウィル・ライトは２００９年に所属していたエレクトロニック・アーツを退社した関係で資料を揃える事が出来なかった為割愛します。

参考文献・その他

<http://www.youtube.com/watch?v=E7GANIG7HGA>

週刊トロ・ステーション　銀河英雄伝説

<http://www.youtube.com/watch?v=5TW-qO0KelY&feature=fvst>

エースコンバット・アサルトホライゾンＰＶ

<http://www.acecombat.jp/>

プロジェクト・エイセス

<http://www.wrightstaff.co.jp/>

有限会社　らいとすたっふ

<http://www.ginei.jp/>

銀河英雄伝説　ＯＮ　ＴＨＥ　ＷＥＢ

<http://qedcmb.main.jp/>

加藤　元浩公式ホームページ「蹴りペンギン」